



7月初旬の水田。稲は分けつを始めています。



田植前の水田の状況



右側にあるのが掘削した井戸

EMの施用状況:EM活性液200ℓ/反+150ℓ/反を投入。水田の塩分濃度は低くなってきています。

宮城県仙台市

今やれることをやろう!の心意気に
仲間が集結し、緑の水田が復活

鈴木有機農園
鈴木英俊さん



左:鈴木英俊さん 右:NPO法人地球環境・共生ネットワーク 宮城県世話人 小林康雄さん

仙 台市宮城野区にある鈴木英俊さんの水田は海岸からの距離2.5km。東日本大震災では津波の被害を受けてしまいました。大きなカレキや車などは流れ込んできませんでしたが、あたり二面へドロ混じりの海水とゴミが散乱。農協の決定は、今年は作付けしないというものでした。また堤防のポンプ場が壊れて、水を引けないこともネックになっていました。しかし、米作り50年のベテランは、「田植えはできる!」と一人で立ち上がったのです。

この鈴木さんの熱い思いが通じ、EM災害復興支援プロジェクトで井戸を掘ることに。「最初から比嘉先生をあてにしたわけではないけど、比嘉先生のおかげで井戸が間に合い、田植えができました」と鈴木さん。

比嘉先生と「てんつくマン」(吉本のお笑い芸人、映画監督、路上詩人などを経て、環境保護・地球温暖化防止PRなどに取り組んでいる環境活動家)が対談した時に鈴木さんの取り組みが話題に出たことから、その後「てんつくマン」と仲間がボランティアに訪れてくれました。せっかく彼らが植えた堤防のひまわりが、草刈り作業で切られないようにと看板も立てました。大震災が人間的に成長させてくれたと、鈴木さん自身、感じているそうです。

災害直後、5年くらいは田んぼは駄目だろうと言われましたが、鈴木さんは1年で「へドロを宝物としよう」とブログで呼びかけました。今

宮城県名取市

EMで塩害に負けずに育った花達

花き農家 高橋恵美子さん



東

日本大震災で、高橋恵美子さんのハウスはガラスが割れ、またたく間に海水が流入しました。

高橋さんはかねてからEMの勉強会でNPO法人地球環境・共生ネットワークの宮城県世話人の小林さんと面識があったため、EMで何とかならないかと相談。花き農家4軒とともに5月20日からEM導入を開始しました。

宿根草のスターチスには、EMボカシとEM活性液を散布。海水に浸かった時には小さかったものが、今では大きく育っています。「EMのおかげで、今年も出荷できそうです」と、その効果に手ごたえを感じています。



震災被害を受けましたが、今年の出来もいいそうです。



「復興トマトと名付けて、支援者へのお礼に配っています」と鈴木さん。

では、鈴木さんの水田だけ、青々とした稲穂が育って、本当に宝物になりつつあります。道端を通る人が田んぼに緑があるといいねと言ってくれるそうです。EM投入のおかげで、へドロの臭いもせず、水もきれいに澄んで、塩害の影響もなく生長しています。

鈴木さんのお米を毎年、心待ちにしてくれている、お客様のためにも、美味しいお米を作ると心に決めて、毎日水田を見守っている鈴木さん。

ハウスのトマトも3月11日から20日までは震災の影響で加温できませんでしたが、寒さに耐え抜いて元気に育っています。これを復興トマトと名付けて、お世話になった方へ贈っているそうです。